

2

子どもの人権

子どもの権利について知ろう

1 対象

教職員、保護者

2 ねらい

子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）を正しく知り、子どもを権利の主体ととらえ、大人と同様に一人の人間として持つ様々な権利を認めると同時に、成長の過程にあつて保護や配慮が必要な子どもならではの権利も大切にするという「子どもの権利」について学び、子どもとの適切な関わり合い方を知り、子どもの成長を支援できるようにする。

3 準備するもの

- ワークシート1
- ワークシート2
- 資料

4 解説

子どもの権利条約は、1989年11月20日、国連総会において採択されました。この条約は、子どもは「弱くて大人から守られる存在」という考え方から、「権利の主体」とあるという考え方に大きく転換させた条約です。子どもを権利の主体ととらえ、大人と同様に一人の人間として持つ様々な権利を認めると同時に、成長の過程にあつて保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めているということが、子どもの権利条約の特徴です。

子どもの権利条約においては、子どもが「権利の保有者」であり、それを守る「義務の担い手」は、国（政府）や大人です。国は、法律や政策などを通じて、条約に定められた子どもの権利の実現に努めます。また、子どもを育てる責任はまず保護者にあり、国がそれを支援するということが記載されています。

子どもの権利条約の4つの原則は、「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」であるとされています。これらの原則は、日本の子どもに関する基本的な法律である「こども基本法」にも取り入れられており、特に「子どもの意見の尊重」が積極的に進められています。

5 進め方（展開例） 50分

時間	本時の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 15分	<p>◆本時の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れや留意点の説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（13分）</p> <p>「子どもは〇〇〇できる」</p> <p>①「〇〇〇」に当てはまるものを考え、ワークシート1に書く。</p> <p>②グループで自己紹介を行った後、考えた文を発表し、自由に感想を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを説明する。 ・P4【学習の約束】を伝える。 ・4人程度のグループで行う。 ・思いついた内容をできる限りたくさん書く。 ・グループの中で、それぞれの言葉を認め合ったり、回答の意図を聞いたりするよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1

<p>展開 30分</p>	<p>◆アクティビティ（30分） 「子どもの権利について知ろう」</p> <p>①「子どもの権利条約」について知り、子どもは権利の主体であるということ学ぶ。</p> <p>②4つの原則を知る。</p> <p>③ワークシート2の右側の欄を考え、書く。</p> <p>④グループで考えたことを共有する。</p>	<p>・資料を配付し、説明する。</p> <p>・大人と同様に一人の人間として持つ様々な権利を認めるという視点をおさえる。</p> <p>・どのような意見でも否定せず、肯定的に受け止めるようにする。</p>	<p>・資料</p> <p>・ワークシート2</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>◆まとめ（5分）</p> <p>・まとめの話を聞く。</p>	<p>・子どもには自分の意見を表明する権利や、様々な活動に参加する権利などがあり、大人と同様に人権を有している存在である。</p> <p>・一人ひとりが自分らしさを大切に、同じように他の人のその人らしさも認め合っていくことが大事である。</p>	

<参考資料など>

- ・「子どもの権利条約」日本ユニセフ協会ウェブサイト <https://www.unicef.or.jp/crc/>
- ・「読んでみよう！『子どもの権利条約』第1～40条」日本ユニセフ協会抄訳
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryu/pdf/CRCshouyaku/picture.pdf>



- ・「相模原市子どもの権利条例」相模原市ウェブサイト
- ・「川崎市子どもの権利に関する条例」川崎市ウェブサイト

「子どもは〇〇〇できる」

「〇〇〇」に当てはまるものを考え、できるだけたくさん書きましょう。

子どもは できる	子どもは できる
子どもは できる	子どもは できる
子どもは できる	子どもは できる
子どもは できる	子どもは できる
子どもは できる	子どもは できる
子どもは できる	子どもは できる
子どもは できる	子どもは できる
子どもは できる	子どもは できる
子どもは できる	子どもは できる

子どもの権利について知ろう

子どもの権利条約の基本的な考え方は次の4つで表されます。それぞれ条文に書かれた権利であるとともに、あらゆる子どもの権利を考えるとときに合わせて考えることが大切な「原則」であるとされています。

それぞれの原則について知るとともに、右側の欄を考え、書いてみましょう。


<p>差別の禁止（差別のないこと）</p> <p>すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。</p>	<p>身の回りで起きている子どもに対する差別はありますか。また、どのようにして解消できるでしょうか。</p>
<p>子どもの最善の利益 （子どもにとって最もよいこと）</p> <p>子どもに関することが決められ、行われるときは、「その子どもにとって最もよいことは何か」を第一に考えます。</p>	<p>「子どもにとって最もよいこと」とはどのようなことでしょうか。</p>
<p>生命、生存及び発達に対する権利 （命を守られ成長できること）</p> <p>すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。</p>	<p>「子どもの命が守られていない・能力を十分に伸ばしていない状況」とはどのような状況でしょうか。</p>
<p>子どもの意見の尊重 （意見を表明し考慮されること）</p> <p>子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、大人はその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。</p>	<p>大人として、どのようなときに「子どもの意見を尊重している」と感じますか。</p>

よ 読んでみよう！ 「子どもの権利条約」 第1～40条 日本ユニセフ協会抄訳


第1条【子どもの定義】
18歳になっていない人を子どもとします。




第2条【差別の禁止】
すべての子どもは、みんな平等にこの条約にある権利をもっています。子どもは、国のちがいや、性のちがいで、どのようなことばを使うか、どんな宗教を信じているか、どんな意見をもっているか、心やからだに障がいがあるかないか、お金持ちであるかないか、親がどういう人であるか、などによって差別されません。



第3条【子どもにもっともよいことを】
子どもに関係のあることが決められ、行われるときには、子どもにもっともよいことは何かを第一に考えなければなりません。




第4条【国の義務】
国は、この条約に書かれた権利を守るために、必要な法律を作ったり政策を実行したりしなければなりません。




第5条【親の指導を尊重】
親（保護者）は、子どもの発達に応じて、適切な指導をします。国は、親の指導を尊重します。




第6条【生きる権利・育つ権利】
すべての子どもは、生きる権利・育つ権利をもっています。




第7条【名前・国籍をもつ権利】
子どもは、生まれたらすぐに登録（出生届など）されなければなりません。子どもは、名前や国籍をもち、できるかぎり親を知り、親に育ててもらえる権利をもっています。




第8条【名前・国籍・家族関係が守られる権利】
国は、子どもが、名前や国籍、家族の関係など、自分が自分であることを示すものをむやみにうばわれることのないように守らなくてはなりません。




第9条【親と引き離されない権利】
子どもには、親と引き離されない権利があります。子どもにもっともよいという理由から、引き離されることも認められますが、その場合は、親と会ったり連絡したりすることができます。




第10条【別々の国にいる親と会える権利】
国は、別々の国にいる親と子どもが会ったり、一緒にくらしたりするために、国を出入りできるよう配慮します。親がちがう国に住んでいても、子どもは親と連絡をとることができます。




第11条【よその国に連れさられない権利】
国は、子どもが国の外へ連れさられたり、自分の国にもどれなくなったりしないようにします。




第12条【意見を表す権利】
子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。




第13条【表現の自由】
子どもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利をもっています。




第14条【思想・良心・宗教の自由】
子どもは、思想・良心・宗教の自由についての権利をもっています。




第15条【結社・集会の自由】
子どもは、ほかの人びとと一緒に団体をつくらったり、集会を行ったりする権利をもっています。




第16条【プライバシー・名誉の保護】
子どもは、自分や家族、住んでいるところ、電話やメールなどのプライバシーが守られます。また、他人から誇りを傷つけられない権利をもっています。




第17条【適切な情報の入手】
子どもは、自分の成長に役立つ多くの情報を手に入れる権利をもっています。国は、本、新聞、テレビ、インターネットなどで、子どものためになる情報が多く提供されるようにすすめ、子どもによくない情報から子どもを守らなければなりません。




第18条【子どもの養育はまず親に責任】
子どもを育てる責任は、まずその両親（保護者）にあります。国はその手助けをします。



第19条【あらゆる暴力からの保護】
どんなかたちであれ、子どもが暴力をふるわれたり、不当な扱いなどを受けたりすることがないように、国は子どもを守らなければなりません。



第20条【家庭をうばわれた子どもの保護】
家庭をうばわれた子どもや、その家庭環境にとどまることが子どもにとってよくないと判断され、家庭にいることができなくなった子どもは、かわりの保護者や家庭を用意してもらおうなど、国から守ってもらえることができます。



※「子どもの権利条約」は前文と54条の条文から成り立っています。日本ユニセフ協会では具体的な子どもの権利を定めた第1〜40条を、わかりやすい抄訳として公開しています。



第21条【養子縁組】

子どもを養子にする場合には、その子どもにとって、もっともよいことを考え、その子どもや新しい親（保護者）のことなどをしっかり調べたうえで、国や公の機関だけが養子縁組を認めることができます。



第22条【難民の子ども】

自分の国の政府からはく書をはがれ、難民となった子どもは、のがれた先の国で守られ、援助を受けることができます。



第23条【障がいのある子ども】

心やからだに障がいがある子どもは、尊厳が守られ、自立し、社会に参加しながら生活できるよう、教育や訓練、保健サービスなどを受ける権利をもっています。



第24条【健康・医療への権利】

子どもは、健康でいられ、必要な医療や保健サービスを受ける権利をもっています。



第25条【施設に入っている子ども】

施設に入っている子どもは、その扱いがその子どもにとってよいものであるかどうかを定期的に調べてもらう権利をもっています。



第26条【社会保障を受ける権利】

子どもは、生活していくのにじゅうぶんなお金がないときには、国からお金の支給などを受ける権利をもっています。



第27条【生活水準の確保】

子どもは、心やからだがかすやかに成長できるような生活を送る権利をもっています。親（保護者）はそのための第一の責任者ですが、必要なときは、食べるものや着るもの、住むところなどについて、国が手助けします。



第28条【教育を受ける権利】

子どもは教育を受ける権利をもっています。国は、すべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、子どもの尊厳が守られるという考えかたからはずれるものであってはなりません。



第29条【教育の目的】

教育は、子どもが自分のもっているのうりよく、まじだいげんしんけんへいわかんきょうを守ることを学ぶためのものです。



第30条【少数民族・先住民の子ども】

少数民族の子どもや、もたらその土地に住んでいる人びとの子どもは、その民族の文化や宗教、ことばをもつ権利をもっています。



第31条【休み、遊ぶ権利】

子どもは、休んだり、遊んだり、文化芸術活動に参加したりする権利をもっています。



第32条【経済的搾取・有害な労働からの保護】

子どもは、むりやり働かされたり、そのために教育を受けられなくなった、心やからだによくない仕事をさせられたりしないように守られる権利をもっています。



第33条【麻薬・覚せい剤などからの保護】

国は、子どもが麻薬や覚せい剤などを売ったり買ったり、使ったりすることにまきこまれないように守らなければなりません。



第34条【性的搾取からの保護】

国は、子どもが児童ポルノや児童買春などに利用されたり、性的な虐待を受けたりすることのないように守らなければなりません。



第35条【誘拐・売買からの保護】

国は、子どもが誘拐されたり、売られ買われたりすることのないように守らなければなりません。



第36条【あらゆる搾取からの保護】

国は、どんなかたちでも、子どもの幸せをうばって利益を得るようなことから子どもを守らなければなりません。



第37条【拷問・死刑の禁止】

どんな子どもに対しても、拷問や人間的でないなどの扱いはしてはなりません。また、子どもを死刑にしたり、死ぬまで刑務所に入れたりすることは許されません。もし、罪を犯してたいほされても、尊厳が守られ年れいにあった扱いを受ける権利をもっています。



第38条【戦争からの保護】

国は、15歳にならない子どもを軍隊に参加させないようにします。また、戦争にまきこまれた子どもを守るために、できることはすべてしなければなりません。



第39条【被害にあった子どもの回復と社会復帰】

虐待、人間的でない扱い、戦争などの被害にあった子どもは、心やからだの傷をなおし、社会にもどれるように支援を受けることができます。



第40条【子どもに関する司法】

罪を犯したとされた子どもは、ほかの人の人権の大切さを学び、社会にもどったとき自分自身の役割をしっかりと果たせるようになることを考えて、扱われる権利をもっています。



